

平成22年度 第4回 第4次総合計画フォローアップ会議 会議録概要

- ◆日時：平成22年12月28日（PM15：00－PM18：00）
- ◆場所：富田林市役所 2階 201会議室
- ◆参加者：委員…大西・前川・山内・湯口・吉川（座長）委員  
事務局（政策推進課）…村本、谷口、大原、仲谷

発言者	発言概要
事務局	<p>◆会議に先立って</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回会議の会議録の承認について。</li> </ul> <p>⇒各委員了承。第3回会議の会議録の承認についても一部修正の上、承認。</p>
委員	<p>◆会議開始</p> <p>●資料の提示</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フォローアップ臨時会合の報告資料（資料1）</li> <li>・第1回会議の資料4の成果指標部分を拡大表示したもの（資料2）</li> </ul> <p>●資料（1）より…成果指標が設定されている例として『出前講座』の行政評価について。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的…基本計画第1章2節「行政職員の市民意識の理解を促すしくみづくり」に分類されているが、双方向性のない一方的な講義であると感じているため、これには繋がらないと考える。</li> <li>・内容…メニューを自由化した方が良いのではないか。</li> <li>・実施主体…「市」となっているが、場を設定しようとするのは市民なのだから、「市民・市民団体」となるのではないか。</li> <li>・成果指標…ここにこの講座事業を位置付ける限り、市民意識の進展が指標にくるべきではないか。</li> <li>・達成状況…算定根拠も示されておらず分かりにくい。</li> <li>・見直し実績…市民目線の評価が書かれているが、根拠が不明。</li> <li>・評価…行政の市民意識の理解が進展したのかどうかを評価すべきである。</li> </ul> <p>●資料（1）より…成果指標が設定されていない例として『救命救急士の教育事務』について。</p> <p>まず、成果指標が設定されていないのに、評価されていることが疑問。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成果指標…救急活動は向上したのか、救命率は上昇したのか、などが考えられる。</li> <li>・評価…目的に対する評価が達成できたとあるが、根拠に乏しい。</li> </ul> <p>上の2つ以外でも、全体的に言えるのは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各課の指標設定については、総じて総合計画が意識されたもの、事業の目的を考えて適切に設定されているものは殆どない</li> <li>・数字の部分の算定根拠が不明と感じた。</li> </ul>

座長	<p>基本計画第1章の進捗状況について、政策推進課の自己評価を聞きたい。第2章部分についても、「発想の転換」に金は掛からないが、手間は掛かるということは理解できるが、さりとて放っておくことはできない。発想の転換とはつまり、何のためにその仕事（事業）が行われているのかを考えることであり、その結果（行き着く先）を示すために作られたものが総合計画であり各種指針であり、成果指標はそこへ根拠を求めべきであろう。この点についても政策推進課としての評価を聞きたい。成果指標の設定に当たっては、総合計画が必ずヒントになる（総合計画を意識する機会となる）はずである。</p> <p>●今年度フォローアップ答申に盛り込むもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指標の設定手順 <ul style="list-style-type: none"> <li>→何のための事業なのか明確な目標意識を持つ。</li> <li>→定量的設定にこだわらない。</li> <li>→指標設定する際、総合計画と共に関連方針や計画を参照する。</li> <li>→設定不可または不適切な場合には、その理由を明記する。</li> </ul> </li> <li>・個別の指標について可能な限り提言に盛り込む</li> <li>・昨年度フォローアップの実施状況の評価</li> <li>・5年目の見直しについて <ul style="list-style-type: none"> <li>→人口減少への対応</li> <li>→地方分権をはじめとする時代の変化に対する、「新しい公共」等の考え方の提示</li> </ul> </li> </ul> <p>◆今年度の提言のキーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度フォローアップのフォロー</li> <li>・総合計画の中身の進捗状況の評価</li> <li>・5年目の見直しに対する視点</li> </ul> <p>昨年度フォローアップのフォローの基準については、昨年提言した資料の作成状況、政策推進課の役割、各職員の意識改革の取り組み状況。</p>
委員	<p>フォローアップシート①については、政策推進課の評価欄を追加するといったフォームの修正が必要ではないか。</p> <p>⇒（各委員同調）</p>
委員	<p>基本計画第2章の評価については、各課が自己評価し、それに対して政策推進課が2次的に評価する。フォローアップ会議としては、さらにこれに対する（3次的）評価を行う。ただ、これらをいくら評価しても第1章の評価には繋がらないため、政策推進課の役割として第1章を評価する必要がある。そうして第1章が推進されれば、条例化(自治基本条例等)による権利（市民参加）の保証ということに繋がってくるのではないか。</p>
委員	<p>答申の構成としては、全体的な評価・個別の評価・（成果指標の）設定のあり方・レジュメといったところか。</p>

	<p>フォローアップシート②については、今年度は一部しか出来ていなかったが、全事業を出すべきである。また、事務事業評価表の内容について、本当に評価対象外なのか、なぜ全事業されていないのか等の疑問点について話し合い、今年度の提言の中心に置いて良いと考える。</p>
委員	<p>●事務事業評価について 出前講座が第1章2節に位置付けられていることについて、事務局の意見を聞きたい。</p>
事務局	<p>双方向性がないというご意見が出たが、出かけた職員は市民の感情や思いを感じる場面もある。講座の内容にもよるため全講座においてそうとは言えないが、間違った位置づけとは考えていない。ただ、全体的に行政評価の記述が総合計画上の位置付けとずれている、入力の際の意識が薄いというご指摘は否定できない。</p>
	<p>フォローアップシートと事業評価との総合評価により、しくみづくりを評価することが求められていると理解しているので、その手法については検討していく。</p>
委員	<p>適正な指標設定を実現するためにも、第2章の2次評価を行う政策推進課としてのスタンスを固めておくべきでは？</p>
事務局	<p>行政評価シートの入力に当たり、担当課に成果指標設定の視点等の説明会は開催した。またどの団体とどのように協働しているのか、該当するしくみづくり、成果指標について設定できない場合にはその理由、の入力に関しても依頼したが、それらがなかなか伝わらずシートに反映されていないというのが現状である。</p> <p>そのため、“一から新たにしくみづくりを構築するのは難しいが、まずは行政評価シートの作成を通して、既存の事業の中で行われている協働を（しくみ）として再認識し、意識の醸成を図る。同時にシートからそれらを拾い上げることで、フォローアップシート①の作成もできる”という目論見通りには行かず、最終的には政策推進課が事業内容から判断し手作業でピックアップ（して作成）する形となった。</p>
委員	<p>これまで試行ということで、全事業について事業評価シートが作成されていないが、何年度までに全事業行うといった方針を示すべきではないか。</p>
座長	<p>根本的な認識として、しくみづくりは事務事業ではないということで良いのか？</p>
事務局	<p>これまで、しくみづくりを事務事業として起こすという認識はなかった。既存の各事業の中で進めて（構築して）いくものと考えている。</p>
委員	<p>何を指した事業であるのかを再認識する機会である行政評価に対する職員の意識の低さは問題である。資料の提供を受けた事業に関しては、意見を述べる必要がある。</p> <p>最終的には、人事評価に繋げなければ意識として高まりにくく、余分な仕事とってしまうのではないか。</p>

座長	<p>それ（行政評価）自体が仕事と認識されなければならない。</p>
委員	<p>●しくみづくりの評価について</p> <p>企業は株主の利益のため自分の責任において仕事をしているが、市役所は市民から付託されて仕事を行っており、行政の仕事は、市役所だけでは本来自己完結できないはずである。しかし、行政はこれまで市民にどうして欲しいのかの合意形成を求めてこなかったし、そういうやり方を市民も許してきた。（第1章の市民参加の仕組みづくり）は、このような行政と市民のあり方を見直し、市民から付託を受けて仕事をするための仕組みであり、それが どう進展したのかを政策推進課が、評価する必要がある。</p> <p>パブリックコメント制度や広報事業など市民参加の仕組みは総合計画が策定される前から存在しているが、それが第4次総合計画によってどう変わったのかということの評価を政策推進課には求めたい。</p>
事務局	<p>しくみづくりの評価は第2章の総合評価を行うことと認識している。</p>
委員	<p>第2章をいくら評価しても、しくみづくりの進展の評価には必ずしもつながらない。ただ、事務事業評価そのものは、（しくみづくりの一環として）今年度政策推進課が提示したフォローアップシート①の「その他」欄に分類しても良いのではないかと。</p>
座長	<p>フォローアップシート①に関しては、フォームにこだわらなくても、政策推進課が評価しやすい形で良いのではないかと。</p>
事務局	<p>このフォームの意図は、経年の取組み状況をフォローアップ会議の資料とすることと、その状況を自己評価することだと捉えている。自己評価に関しては取組めていないが、各項目が増えていくことでしくみづくりの進展と考えている。</p> <p>ただ、このフォームに関しては、区分の分かりづらさを感じており、分類に迷う。</p>
委員	<p>これからの施策に当たる枠を取り払い、節の分類だけでも良いのではないかと。また、どれにも分類され難い項目も出てきており、それについては第1章の3節と同列で、「その他」を位置付けても良い。</p>
座長	<p>◆ここまでのまとめ（これからの作業）</p> <p>フォローアップシート①を変更（枠の修正・政策推進課の評価欄を追加）</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>フォローアップ会議として各課の指標設定（目的意識）について提言</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>事務事業及びその他の項目をフォローアップシート①に抽出し、政策推進課が評価</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>フォローアップで吟味し、経年の進捗状況を確認</p>

委員	<p>例えばパブリックコメントでいうと各課で実施されてはいるが、市全体としてこれが市民参加のしくみづくりの視点からどう変わったのか、どう変えていくのかを考えていくのが政策推進課の仕事。現状は、ほぼ固まった素案を出して諮っている状況ではないか。市役所が今一番大事にしている公平・公正さは、手続きにおける公平・公正であり、例えばパブリックコメントが本当にその本来の役割を果たしているかどうか、本当に市民の意見の計画段階から反映する働きを果たしているかという意識が極めて薄い。このような仕事のやり方を認めてきた市民・議会の問題点もある。それを変えないといけないというのが第4次総計がいう発想の転換のエッセンスとも言える。</p>
委員	<p>提言するなかに、まだまだ中身が伴わない事務事業評価について、市長としてどう評価するのかということを盛り込むべき。</p>
委員	<p>その際に事務事業評価を人事評価に繋げるべきということについても言及すべきではないか。</p>
事務局	<p>人事評価というのはその課の評価ということだろうか？</p>
委員	<p>そうではなく、人事評価である。これに繋がらなければ、事務事業評価など余分な仕事と考えるのではないか。</p>
委員	<p>他の自治体の状況（人事評価や予算配分への反映）はどうだろうか？</p>
事務局	<p>事務事業評価を個人評価として見ていくのは、自治体を取り巻く法体系上難しいと考える。</p>
委員	<p>そうであれば、市民の目に触れるようにすることのほかに、前例踏襲主義の中にある職員の事務事業評価（事業目的）に対する意識を高揚させる術はないのではないか。</p>
事務局	<p>公開するとなった時には、達成可能で無難な目標設定になるのではないかという懸念もある。</p>
委員	<p>ただ、それ以前に入力不備やコストの出し方など公開に耐えない状況にあり、評価表として出来上がっていない。</p>
委員	<p>成果指標については、数字でなくとも言葉で表現するという手法もある。また、マーケットベースで指標を設定できるものとそうでないものに分けて考え、後者については市民のニーズ・満足度以外に根拠はないということに気づかなければならない。すると自ずと市民とともに考えないといけないと思いがたはずであり、それが成果指標を設定する意義ともなる。</p>

委員	出前講座でも単にアンケートを取るのではなく、実施主体（企画した団体）に報告書の作成を義務付け、充足度を測るといった手法もあるのでは？
委員	基本的には計画段階での市民参加を考え、アンケートするにしても調査票を作る段階で市民参加を考えるべきである。
座長	<p>●5年目の見直しについて</p> <p>5年目の見直しに対する提言はどのような内容になるのか？見直しの視点になるのか？</p>
委員	<p>見直しについては大きく分けると</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・策定時から前提が変わったことについて ⇒人口減少・地域分権の進捗など</li> <li>・現時点で総合計画に不足していると感じる点</li> <li>・第5次総合計画の策定に向けて</li> <li>・総合計画に示された条例化に向けての工程</li> </ul>
委員	本来であれば総合計画スタート時に同時にフォローアップ会議を設置し、見直しを立て、これに対する中間報告が見直しに当たるのではないかと。
座長	（事務局の考えとして）5年目の見直しの位置づけについて、中間評価として良いとお考えか？
事務局	基本計画自体は審議を重ねて10年スパンで作成されたものであるから、基本的に見直すものは殆どないのではないかと。ただ、予測より早いペースの人口減少など策定の際との前提の変化について必要があれば付記することも必要であると考えます。
委員	予算・職員数が減少し、さらに地方分権で新たに仕事が下りてくるなかで、市役所だけでは仕事ができなくなっているため、職員・市民ともに意識を変革する必要があるという協働についての切迫した状況も付記すべきと考えます。
座長	中期見直しの枠組みについては？この会議では言及しないということもあり得る？
事務局	フォローアップ会議とは別の枠組みで行うべきものと考えており、来年度のフォローアップ会議を受けて、別組織での見直しを考えている。
委員	行政評価という発想の転換の糸口を見つけたのだから、シートを充足させていくことがそれを進める手段となるという確信を持って提言することが必要。
委員	それも大事だが、行政評価を通じて 政策推進課としては、市民参加のしくみの実現について明確な目標をもち、どの程度実現しているのかを評価し、実現を促進していくことが大切である。

事務局	<p>行政評価の問題点については是非ご提言いただきたい。ただ、評価対象事業に占めるシート作成数の割合の低さに関しては、政策推進課の方針として最低数を設定したものであり、その点において担当課に責任はない。</p> <p>見直しを提言に盛り込むかどうかについては、会議の中で判断していただければと思う。</p>
座長	<p>組織の構成はともかく、どういうことをやって欲しいか（視点）については言及すれば良い。</p>
事務局	<p>組織のメンバーについてもご意見をいただきたい。今の考えでは、フォローアップ会議同様、総合計画審議会のメンバーもいた方が良く考えているが如何か？</p>
座長	<p>必ずしもそうとは言えず、第3者で組織した方がやり易いという考え方もある。</p>
委員	<p>このフォローアップ会議のメンバー選定のプロセスは知らないが、5年の見直しには総計審議会委員全員に広く呼び掛けるなど、もっと合理的なメンバー選定が必要と考える。見直しについては、事務局は見直す点は余り無いと言うが、総合計画で何を約束し、それに対する現在の状況がどうなのか、そしてこれからの残りの5年でそれをどう達成していくのかの見通しの明確化を求めたい。</p>
委員	<p>それでいくと見直しは総括的になるうか。</p>
事務局	<p>◆次回の日程について</p> <p>次回は市長への報告会となるが、各委員や市長のスケジュールもあるので、後日調整の上決定させていただく。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>